

日本の電信と電力の夜明け

幕末から明治初期の日本で、通信技術や電力技術が、
どのようにして社会へ広がっていったのか紹介します。

サスケハナと
ミシシッピー



"FIRST LANDING OF AMERICANS IN JAPAN, UNDER COMMODORE M. C. PERRY AT GORE-HAMA JULY 14TH 1853.
To Commodore M. C. Perry, Officers of men of the Japan Expedition" New York, 1855.

日時

令和5年 10月18日(水)

15:30~17:00

講師

大島研究所代表 **大島正明氏**
工学博士(パワーエレクトロニクス)

会場

産業技術短期大学校
東キャンパス 4階 大教室
(横浜市旭区中尾 2-4-1)



資源に乏しい日本は、明治以来、工業立国を掲げて発展してきました。今年がペリー来航から 170 年目の年に当たります。ペリーが、その翌年、横浜に再来したときには、「日米和親条約」が結ばれましたが、彼は電信機を持参してきており、上陸した浜辺で水兵を使って電信の公開実験を行いました。明治政府は、明治 2 年には、東京-横浜間に電信線を開通させ、電報サービスをスタートさせています。これが日本の通信技術の発祥です。

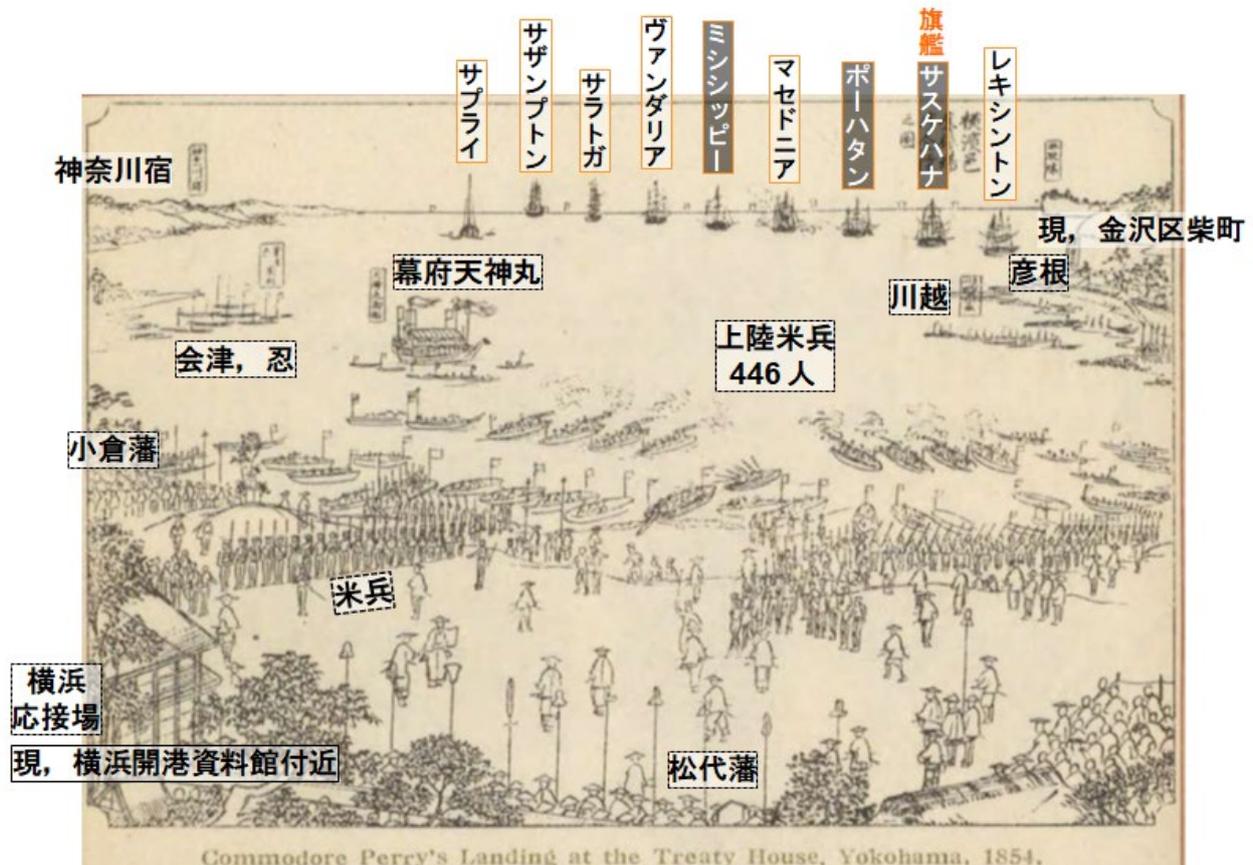
この講演では、幕末から明治初期の日本で通信技術が、そして電力技術がどのようにして社会へ広がっていったのかをビジュアルにご紹介します。

講師略歴

東京大学電気工学科を卒業
東京電力、オリジン電気を経て現職
電気主任技術者試験委員(1種, 2種, 3種)
IEC TC77 国内委員会幹事
電気学会終身会員, 米国 IEEE Life member
パワーエレクトロニクス, ノイズ, EMC 分野において多数の論文, 講師経験を有する。

主な著書

「パワーエレクトロニクスとノイズ対策」(単著)
「次世代 EV/HEV 用モータの高出力化と関連材料の開発」(共著) ほか



<ペリー 一行を出迎える日本の幕府 (このとき、ペリーは電信機を持参していた)>

桶畑翁輔:「米国使節彼里提督来朝図絵」, 1931年2月18日発行から引用

- 【参加対象者】 産業技術短期大学校職業能力開発推進協議会の会員企業の方
【定員】 50名(先着順) 【参加費】 無料
【申込み方法】 別紙の申込書を下記事務局まで、FAX あるいはメールにて送信してください。
(15時開始の短大校運営状況報告会からのご参加をお願いします。)

問合せ先

産業技術短期大学校職業能力開発推進協議会 事務局(矢島, 古澤)
【TEL】045-363-1233 【FAX】045-392-1971
【Eメール】info@suishinkyo.info